

### 1. はじめに

外観やインテリアの色彩は空間の雰囲気左右し利用者の生活意欲や活力にも影響を与えているため高齢者施設計画において重要な役割を果たしている。本研究では、北浦等が色彩計画を行なった大阪市おとしよりセンターの色彩についての評価を検証することによって今後の高齢者用施設の色彩計画の指針を把握することを目的としている。具体的には、色彩計画の行なわれている施設とそうでない施設の色彩環境についての評価の差を検討する。

### 2. 現状施設の色彩についてのアンケート調査の概要

大阪市おとしより健康センターと色彩計画の行なわれていない3カ所の老人福祉センターの利用者248人を対象に、共通の主旨で作成した施設毎の質問票によって利用施設の外観、インテリアの配色、休息空間（食堂・デイルーム・浴室）の評価、作業空間（機能訓練室・階段）の評価などについて個人的に聞き取る方式でアンケート調査を行なった。

### 3. 調査結果と考察

対象とした施設のレベルに質的な差があったにもかかわらず、各施設の色彩に対する高齢者の不満は少なかった。しかし、インテリアや色彩についての認識は現状の利用施設の色彩環境の影響を大きく受けていることがわかった。すなわち、カラフルな色彩計画がなされている施設利用者の方が多彩な色彩を評価する傾向が表われていた。また、色彩による階数の識別はなされにくかった。インテリア内で視認性が高く記憶に残り易い色は暖色系の色相で、寒色や無彩色は印象に残りにくいことが判明した。